

LTD 基盤型授業モデルによる初年次教育 —協同実践力の育成を意図して—

安永 悟
久留米大学

【スライド1】先ほど土井先生のお話を聞きまして、いろいろ刺激を受けまして、「ちょっとまずいなー」と思い始めました。どうも、私の話には暗黙の前提があるように思えてきました。少なくとも、40年前に大学生であった私が、1995年からこういう仕事を始めて20数年経ちました。そして九州の地方大学で教師をしている、ということ的前提に、話を聞いていただいた方がいいのかな、というふうに思います。

【スライド2】今回のシンポジウムのテーマですが「授業内外で育む学び」ということです。このテーマに関して「どういうことを、私自身やっているんだろうか?」と考えてみました。そうしますと、私の言葉で言えば、最近使っている言葉なんですが、私は「協同実践」ができる人を育てたいと考えているわけです。そこで、今日は「協同実践力」という力、つまり、協同実践をおこなえる力の育成を目指して、授業内で基礎力と応用力を高めて、授業外の学生コミュニティで実践力を鍛える、というようなことを、私自身考えていることを、お伝えしたいと思っています。その際、協同実践力の育成を目的とした授業づくりの核として「LTD 基盤型授業モデル」を、いま提案しています。

教育を考える時に、やはりどうしても「最終的にどこに辿りつきたいのか?」すなわち教育の最終目的を教師の側がもっていないと、教育は成り立たないと思います。まあ、こんな表現を使えるようになったのは最近のことなんですが、「すべての人が平和で幸せに暮らせる社会づくり」というのが教育目的として良いなあ、と。ちょっと恥ずかしい気持ちもあるんですけども。

じゃあ、このような社会づくりをおこなうために、どういう人材を育てないといけないのか、というふうに逆算的に考えていったわけです。その時に、それぞれの持ち場で、それぞれの現場で活躍できる人材を育てれば良いんだろうな、というふうに考えました。この「現場で活躍できる人」とは、どんな人か?と考えた時に【スライド3】、「常に変化成長できる人」ではなかろうか。さらに、この常に変化成長できる人とは、常に学べる人であろう、と考えました。この常に変化成長できる「主体的な学習者」は、学びのなかで、実際、どんなことをやってるのか?という、私の考えですが、「目的意識をもって、論理的に考えて、自分の言葉で語って、仲間と交流して、根源を問い続ける」。そこで終わっちゃだめで、やっぱり、きちんと「実践できないといけない」と考えています。この主体的な学習者がおこなっている活動を、最近、「協同実践」という言葉で表現できるのではないかと考え、提案しているわけです。

「協同実践」【スライド4】とは「科学的思考」と「協同の精神」を基盤とした実践といえま

す。「科学的思考」は、私たち研究者がよくやっていることで、心理学者である私が大学で学生を指導している時に、最終的には、この「科学的思考」ができるように訓練している、というのが一方で間違いなくあるなあ、と思います。ただその時に、それぞれのフェーズで、この「協同の精神」ですね、何事も一人ではできない、仲間と一緒にやっていくことが非常に重要だということを理解してもらいたい、というふうに思っているわけです。だからこの「科学的思考」と同時に「協同の精神」もきちんとやっていける。そうしたことをベースとした実践ができる人を育てたい、というふうに私は思っています。

この「協同の精神」ですが【スライド5】、いまはこのように考えています。「仲間と共有した目標の達成に向け、仲間と心と力を合わせ、いま成すべきことを見つけ、真剣に取り組む心構え」です。この「協同の精神」を育てるために、授業をいろいろと仕組んでいます。そのときに、私は「協同学習」という理論と技法をベースにしながら授業を仕組んでいます。

この「協同の精神」が少しでも出てくれば、これは目的としての「協同の精神」ですけども、これが少しずつ出てきたら、今度は逆に【スライド6】、「協同の精神」を基盤として「教え合い、学び合い、励まし合い」ということをやっていくと、そこに基本的信頼感とか支持的風土や協同的な風土が出てきて、これがうまく回転するなかで、深い学びである「協同学習」が実現できるんじゃないか、と思っています。

この「協同の精神」というのは、学習場面だけに限りません。さまざまな場面で「助け合い」や「励まし合い」をやると、同じように展開していき、「協同実践力」が育ち、「協同実践」に満ちた世界が実現するんじゃないだろうか、と考えているわけです。

この「協同実践」というものが育っていなければ、創ってあげるしかない。だから、いろんな場面で、授業の内外で、教育的な支援をしていく。そして「協同実践力」を育てていく、ということをやっていくといけない、と考えています。

その場として、どういう場が考えられるかということ【スライド7】、私はいま大学にいますので、その大学で教師として日々やっていることは授業ですから、この授業のなかで、まず基礎を創っていき、そして応用ができるようにしていこうと考えています。特に、初年次の段階で基礎力をきちんと一度確認して、それ以外の授業のなかで、それをどんどん使ってもらいたい、と考えています。そういうことをやりながら、他方では、授業外の学生コミュニティのなかで、教師の支援からちょっと離れたところで、実践力を高めていってもらいたい、と思っているわけです。

そういう教育を、大学だけでできるはずがありませんので、大学までの、小学校・中学校・高校を、きちんと巻き込みながらやっていくべきだろう、ということになります。ここが高大接続に関わってくるところです。また一方で、大学教育の先に出てくる現実社会ともつなぐ必要があると考えています。

それで実際にどういう授業を初年次で展開しているかということなんですが【スライド8】、これは1年生の前期に15コマやっている授業の内容です。先生方も、いろいろとやられていると思いますが、ここで注目していただきたいのは、先ほど説明した「協同実践」ができるようにするために、さまざまな協同学習の技法を入れている、ということです。何かひとつの技法を入れればそれで済みではなくて【スライド9】、いろんな技法を体系的・重層的に使っていくことによって、協同実践力をうまく育てられる、と考えています。

私は LTD をやっていますので、この LTD というものができるところまでを、ここまでを、いま 1 年生の前期でやっています。学生が LTD を実践できるまで、きちんと育てば、その後の、さまざまな教育活動の質を高めることができる、効果をあげることができると考えています。LTD については、今日は詳しく紹介できませんが、こちらの参考資料にあるようなことをやっています。

LTD まで獲得できたら、その先がうまくいくことを、最近では医学部や歯学部でも確かめています。明日、共同研究者の長田先生に、歯学部で実践した「LTD based PBL」が有効であることを報告していただくことになっています。さらには、先ほど秦先生がご発表になった素晴らしい教育成果も、実は、LTD 基盤型授業モデルを展開していただいている、というふうに私のなかでは理解をしています。

で【スライド 10】、こういうふうなことを現時点では大学の前期の終わりまでかかっています。一方、すでに初等・中等教育から、いまアクティブラーニングがどんどん入っていますから、基礎段階の内容を高校までの間にやっていただきたい。そして、初年次教育のスタート地点をもっと発展段階に近い方にもっていけるように、小中高と大学の連携をしていきたいと思っています。それを受けて、初年次教育の内容そのものを、もう一度洗い直していきたいと思っています。いつまでも同じような内容をやっていて良いはずがないわけですよ。新入生もどんどん変わっているわけですから。小中高でアクティブラーニングを体験してきた人たちが入ってくるわけですから。そこをさらにどうやって私たちは先へ進めていくかっていうことを考えないといけない。従って、初年次教育は、この発展段階の方まで入って行って、本当の意味での、大学の一般教育や専門教育に役立つ初年次教育というものを展開していく必要があるかと思えます。このようなことが授業のなかで展開していけば、授業外の学生コミュニティでの、さまざまな活動も効果的に展開していける、というふうに考えています。

ということで協同実践力の育成を目指し、LTD 基盤型授業で基礎力と応用力を高め、その他の授業や、授業外の学生コミュニティで実践力を鍛える、ということをやってはどうか。その際に学校種を超えて、社会とも連携しながら、こんな世界を創っていったら良いなあ、というふうに思っています。


で、もう一度土井先生のお話に帰っていくんですが、私の話には、私が暗黙に考えている学生がいて、彼らがどういう学生なんだろうかということ、いま一度考え直さないといけない。加えて、今日、土井先生が描き出された学生がいることがわかりましたので、いままでの取り組みを、そのような学生も意識した内容に考え直さないといけないな、と思いはじめました。けれども、自分が掲げている教育の最終目的は変えたくありませんので、教育の目的と学生の現状との間にあるギャップをしっかりと見定めて、このギャップを埋めるために、どういうふうに授業を展開していけば良いのか、いまから考えるべきことだと思っています。

ご清聴、ありがとうございました【スライド 11, 12 (参考文献)】。

初年次教育学会 第10回大会 2017年9月6日(水)
大会企画シンポジウム (中部大学)

LTD基盤型授業モデルによる初年次教育
- 協同実践力の育成を意図して -

安永 悟
(久留米大学)



1

逆向き設計： 協同実践（力）とは (安永, 2017)

最終目的 □ すべての人が平和で幸せに暮らせる社会づくり

↓

教育目的 □ 現場で活躍できる人材の育成

2

(安永, 2012, 2017)

↓

- 現場で活躍できる人
- 常に変化成長
- 主体的な学習者

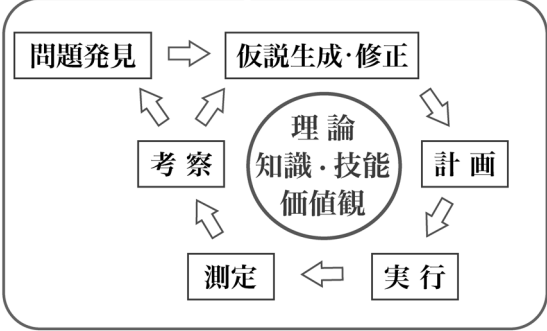
① 目的意識をもって
② 論理的に考え
③ 自分のことばで語り
④ 仲間と交流して
⑤ 根源を問い続け
⑥ 実践できる

} 協同実践

3

変化成長の源泉： 協同実践 (安永, 2017)

科学的思考と協同の精神を基盤とした実践



4

目的としての 協同の精神

仲間と共有した目標の達成に向け
仲間と心と力をあわせ
いま成すべきことを見つけ
真剣に取り組む心構え

↑ ↑

協同を育む 創意工夫・構造化
例：全員が合格しなければ帰れない場面

↑ ↑ ↑

協同学習の理論と技法

5

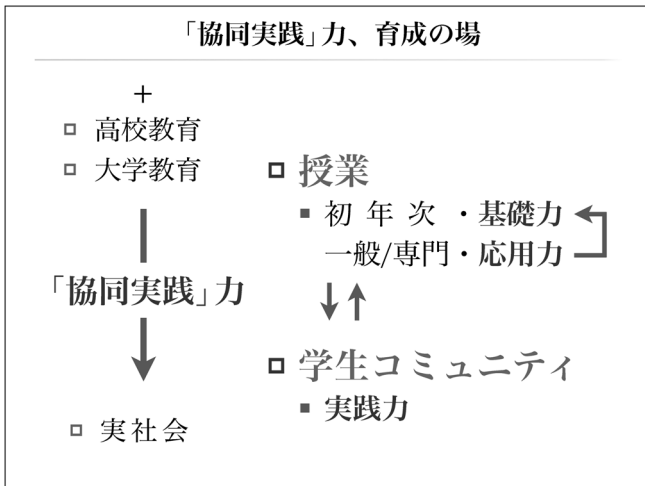
基盤としての 協同の精神

仲間と共有した目標の達成に向け
仲間と心と力をあわせ
いま成すべきことを見つけ
真剣に取り組む心構え

↓ 協同学習 ↑

基本的信頼感、支持的・協同的風土

6

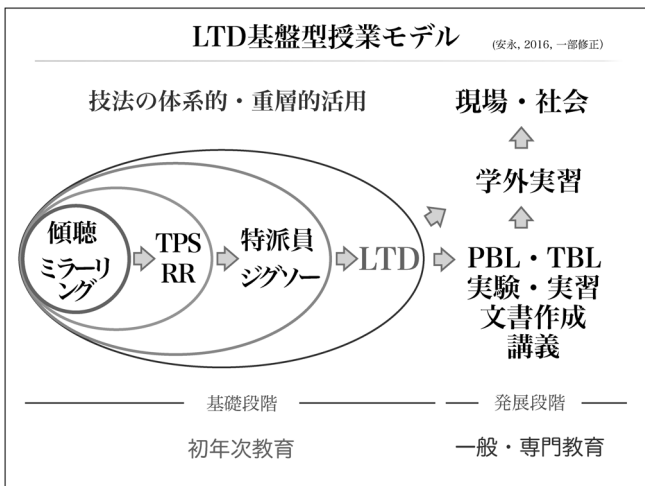


7

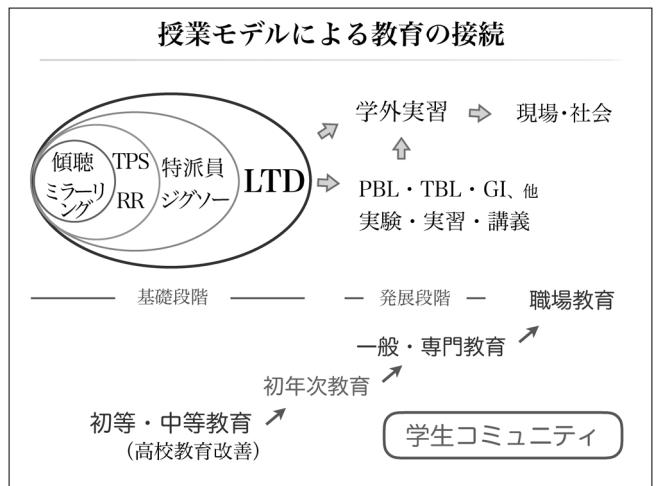
授業計画： 協同実践力を育む初年次科目

1-2講 協同学習の理論と技法	傾聴・ミラーリング TPS・RR	
3-5講 授業の受け方、ノート		特派員 ↓
6-8講 言語技術 (聴く・話す・読む)		ジグソー ↓
9-11講 LTD話し合い学習法	LTD ↓	↓
12-14講 言語技術 (書く)	↓	↓
15講 ふり返し、まとめ	↓	↓

8



9



10

参考文献 1/2

長田敬五・安永悟 (2017) LTD based PBL: 効果的なPBLチュートリアル. 第36回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 発表原稿.

太田圭介・安永悟 (2017) 医学部組織実習へのLTD基盤型授業を意識した協同学習の導入とその効果. 第49回医学教育学会, シンポジウム1, 13.

須藤文・安永悟 (2011) 読解リテラシーを育成するLTD話し合い学習法の実践: 小学校5年生国語科への適用. 教育心理学研究, 59, 474-487.

須藤文・安永悟 (2014) LTD話し合い学習法を活用した授業づくり: 看護学生を対象とした言語技術教育. 初年次教育学会誌, 6, 1, 78-85.

安永悟 (2012) 活動性を高める授業づくり: 協同学習のすすめ. 医学書院

11

参考文献 2/2

安永悟 (2015) 協同による活動性の高い授業づくり: 深い変化成長を実感できる授業をめざして. 松下佳代 (編著) 「ディープ・アクティブラーニング」 勁草書房, 113-139.

安永悟 (2016) 協同学習による授業デザイン: 構造化を意識して. 溝上慎一 (監修) 安永・岡田・水野 (編著) 「アクティブラーニングの技法・授業デザイン」 東信堂 2016, 3-23.

安永悟 (2017) 協同学習でめざす教育の本質: 協同実践を中心に. 久留米大学教職課程年報 2017, 創刊号, 23-32.

安永悟・岡田範子 (2016) LTD話し合い学習法の実践. 杉江修治 (編著) 「協同学習がつくるアクティブ・ラーニング」 ナカニシヤ出版, 90-98.

安永悟・須藤文 (2014) LTD話し合い学習法. ナカニシヤ出版.

12